

若松クラシック

展望



3/25(火)▶30(日) in 若松

2025年のSG初戦「ボートレースクラシック」がいよいよ開幕する。今年の舞台はクラシック初開催となる若松。ナイター開催となった22年の大村大会は遠藤エミが女子レーサーとして史上初のSG制覇を飾った。今年はどうなドラマが生まれるのか楽しみだ。



前年覇者の毒島誠



連覇を狙う毒島誠、地元福岡支部からは8人が遠征勢を迎え撃つ

25年のSG戦線第一弾、ボートレースクラシックが若松を舞台に開幕する。出場資格は前回大会の優勝者をはじめとする優先出場者や、GI、GII優勝者、一般戦の優勝回数上位者となる。今年は大大会初出場7人を含む豪華メンバーで白熱のバトルが繰り広げられる。

優勝候補として期待されるのは毒島誠だろう。昨年戸田で行われたこの大会は強い追い風が吹く中、2コースから差し抜けて3年4か月ぶりのSG優勝を飾った。年末には悲願だったグランプリ制覇も決め、令和6年度の最優秀選手を含む3部門を獲得と充実した1年だった。自身のSGタイトル9冠のうち、7冠

がナイター場。「ナイターキング」の異名を持ち、今年の舞台でもある若松も18年のオーシャンカップで優勝と実績は文句ない。今年もクラシックから、目標の年末へ突き進む。

昨年11月からの今期勝率を見ると茅原悠紀が9点台中盤と驚愕の数字を残している。昨年のグランプリ後、茅原は1か月ほど休んでいるので、出走回数は他の選手と比べると若干少ないのだが、それでもBBCトーナメント優勝を含めて今の勢いは見逃せない。

関東地区選でGI復帰を果たした桐生順平も8・54と十分過ぎる勝率をマーク。昨年の児島周年準優Fの関係でSG以外是一般戦が主体だったが、ダービーから地区選まで出場したレースは全て優出しているのだから驚きだ。クラシ



今期勝率は9点超えの茅原悠紀



表1 第60回ボートレースクラシック 出場選手選出順位表

優先・順位	登番	氏名	支部	勝率	優勝回数	出場回数
前年V	4238	毒島 誠	群馬	7.93	5	13年連続13回目
第39回 グランプリ 優先選手	4418	茅原 悠紀	岡山	7.84	5	5年連続10回目
	4262	馬場 貴也	滋賀	7.36	4	3年連続6回目
	4444	桐生 順平	埼玉	7.86	3	12年連続12回目
	4851	関 浩哉	群馬	7.46	4	2年ぶり3回目
	3941	池田 浩二	愛知	8.02	3	4年連続16回目
SG優勝	4494	河合 佑樹	静岡	7.51	6	2年ぶり2回目
	4504	前田 将太	福岡	7.41	4	4年連続5回目
	5121	定松 勇樹	佐賀	7.13	3	2年連続2回目
	4362	土屋 智則	群馬	7.02	2	3年連続4回目
GI・GII 優勝者	4686	丸野 一樹	滋賀	6.99	3	3年ぶり4回目
	4502	遠藤 エミ	滋賀	7.15	5	4年連続7回目
	4371	西山 貴浩	福岡	7.56	4	3年ぶり6回目
	4166	吉田 拓郎	岡山	7.06	5	3年連続8回目
	4044	湯川 浩司	大阪	6.79	4	4年ぶり12回目
	4685	島村 隆幸	徳島	7.12	6	2年連続2回目
	4445	宮地 元輝	佐賀	7.15	5	3年連続4回目
	4719	上條 暢嵩	大阪	7.56	4	2年連続4回目
	4914	吉田 裕平	愛知	7.16	4	初出場
	3415	松井 繁	大阪	7.37	3	3年連続28回目
	4932	新開 航	福岡	6.87	3	3年連続3回目
	4886	入海 馨	岡山	6.77	3	初出場
	3779	原田 幸哉	長崎	6.74	3	2年ぶり17回目
	3918	深井 利寿	滋賀	6.63	3	12年ぶり2回目
	4320	峰 竜太	佐賀	8.29	2	2年連続10回目
	3716	石渡 鉄兵	東京	6.44	2	2年ぶり6回目
	4524	深谷 知博	静岡	6.85	1	2年ぶり5回目
	4344	新田 雄史	三重	7.07	5	2年連続9回目
	4677	片橋 幸貴	滋賀	6.49	3	初出場
	4352	下條雄太郎	長崎	6.97	2	4年ぶり2回目
4330	奈須 啓太	福岡	6.24	2	初出場	
東海地区選V	4024	井口 佳典	三重	6.81	1	3年連続16回目
近畿地区選V	4290	稲田 浩二	兵庫	6.99	3	2年ぶり5回目
中国地区選V	4537	渡邊 和将	岡山	6.86	3	2年ぶり3回目
九州地区選V	4848	仲谷 颯仁	福岡	7.07	3	2年ぶり4回目
38	4571	菅 章哉	徳島	6.85	9	3年ぶり2回目
39	4856	豊田健士郎	三重	6.83	9	2年連続2回目
40	4959	井上 忠政	大阪	7.09	8	初出場
41	4847	佐藤隆太郎	東京	7.13	7	初出場
42	4398	船岡洋一郎	広島	6.93	7	2年ぶり3回目
43	3623	深川 真二	佐賀	7.58	6	2年ぶり14回目
44	3721	守田 俊介	滋賀	7.42	6	4年ぶり15回目
45	4544	松田大志郎	福岡	7.11	6	2年連続5回目
46	4335	若林 将	東京	7.00	6	5年ぶり2回目
47	4055	吉田 俊彦	兵庫	6.27	6	2年ぶり5回目
48	4503	上野真之介	佐賀	7.72	5	4年ぶり2回目
49	4208	三浦 永理	静岡	7.54	5	11年ぶり4回目
50	4500	山田 康二	佐賀	7.46	5	2年ぶり3回目
51	3854	吉川 元浩	兵庫	7.42	5	2年連続15回目
52	4188	久田 敏之	群馬	7.33	5	2年ぶり3回目
繰り上がり	4288	永田 啓二	福岡	7.32	5	初出場
	4566	塩田 北斗	福岡	7.24	5	2年ぶり2回目

ツクは15、17年に優勝と縁のある大会でもあり注目度は高い。3、4位には今がトレンドの上流にいる河合佑樹と上野真之介の102期コンビが続く。中国地区

らスタートダッシュを決めたい。そして地元福岡支部からは8選手が出場。昨年末の時点で出場権を持っていたのは前田将太、西山貴浩、新開航、奈須啓太、松田大

選では8戦7勝の準パ一フェクトVで2年ぶりのSG出場を決めた波邊和将も軽視できない存在だろう。峰竜太は今年1月に右手中指骨折のアクシデントもあったが、2月の九州地区選では元気に復帰し、優出も決めた。昨年はSG無冠に終わってしまっただけに、今年は開幕戦からスタートダッシュを決めたい。

表2 25年後期勝率上位20選手

順位	登番	選手	勝率	2連率	優出回数	優勝回数
1	4418	茅原 悠紀	9.54	78.26	4	3
2	4444	桐生 順平	8.54	81.54	8	3
3	4494	河合 佑樹	8.16	57.81	5	2
4	4503	上野真之介	7.86	56.38	4	0
5	4208	三浦 永理	7.81	56.72	4	1
6	3941	池田 浩二	7.80	54.24	5	0
7	4537	渡邊 和将	7.79	64.38	5	2
8	4851	関 浩哉	7.78	53.25	5	0
9	4238	毒島 誠	7.74	54.55	5	2
10	4914	吉田 裕平	7.72	51.28	2	2
11	4320	峰 竜太	7.71	57.14	3	0
12	3623	深川 真二	7.58	65.67	3	0
13	4504	前田 将太	7.58	54.43	3	2
14	3779	原田 幸哉	7.55	52.94	3	2
15	4848	仲谷 颯仁	7.55	54.76	5	2
16	5121	定松 勇樹	7.52	48.10	4	0
17	4566	塩田 北斗	7.51	62.65	5	4
18	4024	井口 佳典	7.50	55.00	6	2
19	3721	守田 俊介	7.47	63.86	4	4
20	4856	豊田健士郎	7.44	60.76	5	2

志郎の5人だったが、九州ダービーで仲谷颯仁が優勝。永田啓二、塩田北斗は繰り上がりで巨大な一

枚岩となった。地の利を最大限に生かし、一人でも多く上のステーションを目指す。

2024/11/1~2025/2/20



BOAT RACE CLASSIC



西山貴浩は地元で初のSG制覇を狙う



昨年グランプリSで初SG優勝を決めた前田将太

表3 クラシック出場選手の若松通算成績・上位20選手

順位	登番	選手	勝率	2連率	優出回数	優勝回数
1	3415	松井 繁	7.94	50.35	14	4
2	4444	桐生 順平	7.83	59.78	5	2
3	3854	吉川 元浩	7.66	54.17	11	6
4	4418	茅原 悠紀	7.52	54.60	7	3
5	4344	新田 雄史	7.38	46.67	6	2
6	4024	井口 佳典	7.35	52.91	9	5
7	4166	吉田 拓郎	7.29	56.02	12	2
8	4320	峰 竜太	7.28	52.78	10	5
9	4238	毒島 誠	7.28	49.75	9	3
10	4044	湯川 浩司	7.26	52.14	10	3
11	3941	池田 浩二	7.22	48.48	4	0
12	5121	定松 勇樹	7.19	52.78	2	1
13	3721	守田 俊介	7.04	46.74	7	2
14	4524	深谷 知博	7.00	52.05	4	1
15	3779	原田 幸哉	6.99	46.44	9	3
16	4262	馬場 貴也	6.99	48.51	7	2
17	4371	西山 貴浩	6.98	50.51	40	10
18	4504	前田 将太	6.92	52.41	18	5
19	3716	石渡 鉄兵	6.89	49.18	10	1
20	3623	深川 真二	6.86	50.70	13	2

2024/ 11/1 ~ 2025/2/20

若松勝率は松井繁がナンバーワン 桐生順平もドル箱水面だ

若松における勝率トップは、06、13年にオーシャンカップ2度の優勝歴がある松井繁の7・94。これだけでも十分に凄い数字だが、G I以上のレースに限れば8・00とハイアベレージを残し、大舞台で何度も結果を出し続けていることが分かる。

G I以上のレースを複数回勝っているのは松井以外なら吉川元浩、井口佳典、峰竜太で4人。桐生順平は走る回数こそあまり多くないが、勝率は松井に次ぐ7・83で、オールスター優出や70周年記念優勝など走れば高い確率で活躍するドル箱水面である。

茅原悠紀、新田雄史、吉田拓郎らも得意にしている一方で、池田浩二や馬場貴也は実力を考えると成績に物足りなさが残る。また、昨年のグランプリファイナリストでもある関浩哉は若松で走ったことが2節しかなく実績もほとんどない。今回は約2年ぶりの若松だが、実力をどこまで発揮できるか。出走機会の多い地元勢では西山貴浩と前田将太に注目が集まる。西山は昨年の72周年記念で初の大会制覇を飾り大願を成就させた。思い入れの強い若松で今度は初のSG制覇へ。

一方の前田は昨年14回優出と年間を通して活躍。年末にはグランプリシリーズでSG制覇を決めた。若松のG I以上のレースで優勝はないが、優出は6回と結果を出し続けているだけに調子の良さも含めると期待値は高い。

地元番記者が厳選 若松の注目エンジンを丸裸に!!

32 号機	評価 A+	14 号機	評価 A+	11 号機	評価 A+	10 号機	評価 A+	12 号機	評価 A+
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
34.6%	↑	40.0%	→	52.0%	→	58.4%	↓	64.0%	→
6人目にして初めてA級(川上剛)が乗って「これはSGを獲る」と本体を絶賛。確かに前から予兆はあった。		乗りの関係で2連対率は40%だが伸びのパンチ力は断トツでエース機候補の筆頭。乗り手を選ばない強みも。		乗り手にはさほど恵まれていないが2連対率は50%超え。基本は伸び系だがレース足も文句なしに仕上がる。		2節目に菅章哉が節イチ仕立てで優勝して以降、誰もペラをたたかずトップ級維持。伸び型ではなく出足も◎。		6人中5人がA級、しかも主力クラスということもあり2連対率はトップ。初使用からずっと上位足をキープ。	

7 号機	評価 A	46 号機	評価 A	57 号機	評価 A+	48 号機	評価 A+	30 号機	評価 A+
2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況	2連対率	近況
47.2%	→	53.0%	↓	31.4%	↓	40.7%	↓	30.9%	→
岡村慶太、上野真之介とV候補が乗ればすごい足になった。上野は「クラシックでもこれを引きたい」と断言。		正月戦で前田将太が仕上げて抜群になったが、直近の平石和男がペラをたたいて平凡。ペラ調整次第かも。		海野康志郎が節イチに仕上げるなど文句なしのトップ級だったが、1節おきに使い始めたここ2節は平凡に。		初使用から伸び型でずっと上位足だったが、関裕也が出足型にペラをたたき変えて変調。伸びがなくなった。		A級が1人だけなので2連対率は低いが、節イチ評価が2回あり、B級でも出る。エース機候補のひとつ。	

※成績は25年2月20日時点



若松は例年もそうだが、冬場ということもあり初使用の節からパワーの差、特に伸びの差が大きいのが特徴で、素性の判断は非常にしやすい。まだエース機は定まっていないものの、候補エンジンは多数ある。ただ、この評価はあくまでも2月時点までのもの。気温が上昇する3月はエンジン相場の変動があり、冬場の上位機の半数は脱落してしまう傾向がある。ク

11月25日が初使用でクラシックが13節目となる。いわゆる2024年式のエンジンで、尼崎グラチャンでセット交換が話題になったのと同じ型ではあるが、今のところセット交換で爆上がりしたエンジンはひとつもない。若松自慢の中間整備も例年ほど効果が出ておらず、上と下のパワー差はかなり大きい。

若松は例年もそうだが、冬場ということもあり初使用の節からパワーの差、特に伸びの差が大きいのが特徴で、素性の判断は非常にしやすい。まだエース機は定まっていないものの、候補エンジンは多数ある。ただ、この評価はあくまでも2月時点までのもの。気温が上昇する3月はエンジン相場の変動があり、冬場の上位機の半数は脱落してしまう傾向がある。ク

**エース候補は14・30・11号機
10号機の動向に大注目!**

クラシックでも機歴通りのパワーを発揮しない上位機が間違いなく出現することには注意が必要だ。
8基あるA+評価のうち、エース機にもっとも近いのは14号機か30号機か11号機。乗り手を選ばず、誰が乗っても出ている点が魅力。2連対率トップの12号機は乗り手が良すぎて数字が高いのだが、唯一のB級選手もいい足だったので心配は無用かも。
大注目10号機。菅章哉(最後はチルト0のイン仕様)以降の4人はいずれもノーハンマーで乗りやすく出足もいい伸び型という仕上がりだが、ペラが開いてきたのが威力が少し落ちてきた。クラシックで再び菅が引く奇跡が起これば菅のSG初優勝があるかも。
(スポーツ報知・井上誠之)